

## 一、愉快な名大祭

◆第五一回名大祭 ― 「だって、笑顔でいたいじゃない」

二〇一〇（平成二二）年六月三日（木）から六日（日）にかけての四日間、名古屋大学東山キャンパスにおいて、第五一回名大祭が開催されました。名大祭本部実行委員会の集計によると、期間中の来場者は約五万人に達しました。

第五一回名大祭のテーマは「だって、笑顔でいたいじゃない」でした。これは、環境学研究科大学院生の原案によるものです。学生からの応募を中心とする四二案から、学生団体からなるテーマ選考会議が三案を選び、これらによつて全学生および職員による投票をおこない、選ばれた原案を実行委員会が修正のうえ決定しました。このテーマについて、名大祭本部実行委員会委員長は次のようにコメントしています。

名大祭は前回で半世紀を迎え、今回の名大祭はそこからの新たな一歩と言えます。過去五〇年の歴史を振り返ると、決してその道のりは平坦ではありませんでした。



第51回名大祭の豊田講堂前特設ステージ（名古屋大学広報室提供）

それでも今年、名大祭は次の半世紀に向けて歴史を刻みます。

“だって、笑顔でいたいじゃない”。

エネルギーと笑顔の溢れる名大祭は、今年も歩み続けます。

平坦ではなかったとしながらも、名大祭の五〇年の歴史をエネルギーと笑顔があふれるものであったと総括し、この伝統を次の五〇年にも伝えていこうという意図が読み取れます。テーマキャラクターも、『不思議の国のアリス』に登場する、いつも笑顔のチェシャ猫をモチーフにした「にゃんたる」が選ばれました（表紙の写真を参照）。

## ◆模擬店・フリマ・ステージ

四日間の会期でとりわけ多くの参加者がある土曜日と日曜日、地下鉄名古屋大学駅から地上へ出ると、まず目に入るのは、とくに人が多く集まっている模擬店（飲食店）、フリーマーケット、豊田講堂前特設ステージ、第二グリーンベルトステージです。

模擬店は、名大祭初期は必ずしも主要な催しではありませんでしたが、その是非はさておき、今やこれを抜きにして名大祭を語ることはできません。第四九回までは、第二グリーンベルト側のメインストリートおよび豊田講堂テラス前が模擬店エリアとされ、店の数は約二〇〇を数えました。ただ第五一回では、模擬店エリアは北側メインストリートのみとされ、店数も四六と激減しました。その理由は、第七章でふれたいと思います。

フリーマーケットは、第二グリーンベルトからメインストリートにかけて、多くの店が並んでいます。本部実行委員会企画として本格的にパンフレットに載るようになったのは一九九二（平成四）年からです。すっかり名大祭の風景として定着しました。

屋外ステージには、豊田講堂前の特設ステージと第二グリーンベルトの常設ステージがあり、音楽やダンスのライブやイベントが頻繁に行なわれて、名大祭の花形ともいえる空間になります。ステージから音楽などが聞こえてくると、名大祭がはじまったことが実感されます。

## 第51回名大祭学術企画一覧（五十音順）

赤崎特別教授の青色LED研究／明日の自分に～名古屋大学卒業生による講演会～／イスラム文化／イネとメダカで展開する生命科学研究の現場～イネの不思議な遺伝子とメダカ変異体コレクション～／色のある分子～ものづくり最前線／宇宙からやってくる謎の粒子、宇宙線／エネルギー変換化学への招待／カーボンナノチューブが拓く低環境負荷エレクトロニクス／変わった動物と染色体をみる／環境医学研究所公開／環境調和型エネルギー変換技術の研究／キガコワレットキ／ケミストリーギャラリー一般公開／講演会 なぜ「生物多様性」は破壊されるのか～COP10を前に考える～／講演と討論の広場／酵素のかたちと働きをしらべる／サイエンスカフェ森林気象水文／サイエンスワールド／地震と火山を作ろう！／自然界での物質循環／自然言語処理ってなんだろう？／自然には理由がある！？／シミュレーションがひらく豊かな世界／植物研究が立ち向かう世界の食糧危機／生物相関機構と資源昆虫のオープンラボ／世界の子どもに愛の手を／セクシャルマイノリティ講演会／素粒子研究の最前線へ／第13回名古屋大学博物館特別展／対話と思いやりの社会へー情報技術のいまとこれから／地球大気と宇宙空間のはざままでーオーロラを通した超高層大気の研究／地球水循環センター研究紹介／展示会～沖縄基地問題と安保50年／電子顕微鏡で見るミクロの世界／途上国開発の研究事例／土木展／囚われのオルガネラと被子植物の起源／名古屋大学附属図書館2010年春季特別展／半導体、塩、チョコレートー身の周りの「いろいろな結晶」ー／触れて感じるロボット技術／ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー公開ツアー／法律相談／ポスターストリート／ミニ平和資料館／身の回りの放射線・放射能～自然放射線を見よう～／名大生によるシンポジウム～名大生、こんなこと考えてますっ！～／名大発！ 日本の未来を考えるディスカッション／名大寄席／ものの年代はどうやってはかるの？／横井・安田研究室研究公開／流体力学の世界にふれてみよう！／量子エネルギー工学展／レーザー光で同位体を測る／ロビーといっしょ

（第51回名大祭パンフレットより作成）

### ◆さまざまな企画

第五一回の名大祭パンフレットの目次をみると、さまざまな企画が六つに分類されています。「音楽」（一九企画）、「エンターテイメント」（二〇企画）、「参加・体験」（二七企画）、「展示発表」（一六企画）、「学術」（五四企画）、「その他」（一〇企画）というカテゴリーです。

ほとんどは名大祭本祭期間中（六月三日～六日）に開催されたものですが、これに先立って行なわれるプレ企画にも、仮装行列やスケートなどの有名企画があります。仮装行列は第一回名大祭誕生以前からの長い歴史を持ち、スケートも第一三回以来の企画です。

企画の内訳を見ると、よく指摘される名大祭の娯楽化・イベント化は否定できません。ただ、屋内で行なわれることがほとんどなので外からはあまり目立ちませんが、学術企画も全体の三分の一以上を占めています。学術企画のほとんどは、名古屋大学の研究機関や研究室などによるものです。名大祭会場では、全体のパンフレットのほかに、学術企画だけを集めた『学術系パンフレット』も配布されています。

娯楽と学術が共存する大学祭。それが現在の名大祭であるとも言えそうです。

#### ◆名大祭本部実行委員会企画

第五一回名大祭では、本部実行委員会が行なった企画（本部企画）が一四ありました。これは、多くの名大生が参加する名大祭、参加者に親切な名大祭をめざした企画です。

たとえば、先ほども少しふれたプレ企画としてのスケート（「恋してスケート〜今年もやってきた!! 名大祭直前企画〜」、初日のオープニング企画（「51st名大祭オープニング企画〜STAR☆TRAIN〜」）、最終日の「後夜祭〜the dreamy carnival〜」、フリーマーケット）、「サイエンスワールド」、「第5回盆踊り〜おもしろいきりBON!〜」、「名大生によるシンポジウム〜名大生、こんなことを考えていますっ!〜」などです。

とくにこの年は、目玉企画の一つとして、二〇〇八（平成二〇）年にノーベル物理学賞を受

賞した、名古屋大学素粒子宇宙起源研究機構長の益川敏英博士などを講師とする「明日の自分」名古屋大学卒業生による講演会」が開催され、大盛況を博しました。

ジャンルはさまざまですが、名大祭の節目となる企画、伝統ある企画、名物となっている企画が目につきます。また、模擬店を統括するのも本部実行委員会です。名実ともに、本部実行委員会が名大祭のかなめであることが分かります。

#### ◆名大祭一・二年生実行委員会企画

名大祭には、本部実行委員会のほか、一・二年生実行委員会が組織されています。以前は教養部実行委員会でしたが、一九九三（平成五）年一〇月に教養部が廃止されたことにもなつて改称されました。

この一・二年生実行委員会も、八つの企画を開催しました。特設ステージのライブ企画である「Vital Beats」、第二グリーンベルトステージで「ミス名大祭」などのイベントを行なう「Crystal Union」、お化け屋敷「Shout And Sense」、いろいろなスポーツ大会からなる「Mr. Launcher」など、楽しいイベントばかりです。

その中には仮装行列も含まれています。この年の「仮装行列2010 Fancy Stars Marching」みんなで紡ぐ夢物語」は、五月一六日、名古屋随一の繁華街である栄の久屋広場をメイン会

場に、名古屋女子大学中学校・高等学校吹奏楽マーチングバンド部や、交通誘導を担当した中警察署など、多くの方々の協力を得て行なわれました。

当日は、名古屋大学の新生が、クラスごとに仮装をして栄の街を行進しました。その仮装ぶりは、名大生の意識や関心を映す鏡ともいえ、五〇年前の第一回に比べるとずいぶん様が変わりしていますが、今や名大祭の枠を超え、名古屋の風物詩になっているといっても過言ではないでしょう。

#### ◆有志企画

本部実行委員会企画および一・二年生実行委員会企画のほかは、実行委員会以外の学内・学外の団体や機関が、一定の手続きを経たのちに参加するものです。原則として、責任者は名古屋大学の在学生または職員であることが求められますが、学内団体の企画に支障をきたさない範囲で、学外団体が名大祭に参加することも認められています。

これら有志企画の具体的な内容については、次ページの一覧をご覧ください。

## 第51回名大祭有志企画一覧（カテゴリー内五十音順、学術企画を除く）

[音楽] アカペラライブ～Step～（名古屋アカペラサークルJP-act）/ Electone Festival '10 (WHITE COLOR) / 軽音ライブ（名古屋大学軽音楽部フュージョンセッション）/ 芸音楽部ライブ2010（芸音楽部）/ C. Bライブ（C. B）/ ジャズコンボ、ピックバンドライブin名大祭（軽音楽部ジャズセッションエーデルレーテジャズオーケストラ）/ Shana LIVE2010（Shana Club）/ 豊田講堂コンサート（名古屋大学ピアノ同好会）/ 中庭ライブゆずまつり（ゆずず）/ なごすい水無月の宴（名古屋大学吹奏楽団）/ NAGOYA ROCK FES' 10（R246）/ フュージョンセッションLIVE @特ステ（名古屋大学軽音楽部フュージョンセッション）/ ブルーグラスカフェ（名古屋大学ブルーグラスサークル）/ 名大祭演奏会（名古屋大学古楽研究会）/ 名大祭ライブ（名古屋大学医学部軽音楽部）/ ライブ（仮（u. n. i. band）/ ライブ喫茶 PUTIÑA（名古屋大学フォルクローレ同好会）/ ライブハウス（名古屋大学ソング同好会）[エンターテイメント] 居合道演武会～直心～（名古屋大学居合道部）/ お客様と、共にビートルズ・マジックライブ（録君 & マジジョンナ）/ Campus Communication Square' 10（名古屋大学放送文化研究会）/ 劇団バックスの水族館第62回公演（劇団バックスの水族館）/ 大道芸人大集合（大道芸人大集合）/ Doppin Festival（Doppin Medits）/ 名古屋大学奇術研究会 クロスアップマジックショー（名古屋大学奇術研究会）/ 名古屋大学劇団新生 名大祭公演（名古屋大学劇団新生）/ N. U. STYLE（N. U. STYLE）/ ポエラニオリタヒチ タヒチアングダンスショー（タヒチアングダンススタジオ ポエラニオリタヒチ）/ 名大祭映画上映会（名古屋大学映画研究会）/ 名大祭公演『君に、伝えたい』（民族舞踊同音舞）/ 名大祭で踊ってみた（名大ダンスーズ（笑））/ 名大祭マジックショー（名古屋大学奇術研究会）/ ライブペイント（イワシヤンテッヒュ）/ らんまつり（名古屋大学“快踊乱舞”）/ らんまつり 第2部（名古屋大学“快踊乱舞”）[参加・体験] ☆気軽にカラーセラピー☆（Sun flower）/ 来て見て知って☆グローバルライブ（異文化交流サークルACE）/ 巨大すごろく of 防災（震災ガーディアンズ・防災班）/ クイズ体験イベント（名古屋大学クイズ研究会）/ クイズ名大カップ（名古屋大学クイズ研究会）/ ゲーム体験会（シミュレーションゲーム研究室）/ 工作でエコ～よJ（名古屋大学環境サークルSong Of Earth）/ 国際的な頭脳スポーツを体験しよう！（名古屋大学コントラクト・ブリッジ・サークル）/ 心のエステ（サークル・リバティ）/ 自転車でGO！（アマチュア無線研究会）/ 心理展（文学部 心理学研究室）/ ズバリ言うわよ2010（椋山女学園大学易学研究会）/ 峠の工房（名古屋山歩きサークル「さんぽ」）/ 繁盛行路（ラガドーンタバーン）/ Paper Craft（名古屋大学人力飛行機制作サークルAir Craft）/ 名大オープン（名古屋大学庭球同交会連盟）/ 模擬病院（鶴舞祭実行委員会）/ WakuWakuアメフト～大人から子供まで楽しめる～（名古屋大学アメリカンフットボール部）[展示発表] 化工展（分子化学工学教室）/ 貨物特集（名古屋大学鉄道研究会）/ 水彩展（名古屋大学水彩部）/ 生物祭2010～生き物を探して～（名古屋大学生物研究会）/ ゼロ年代SFベスト特集（名古屋大学SF研究会）/ タテ看（名古屋大学水彩部）/ 「小さな」人工世界が創る「大きな」びっくり11（情報科学研究科 複雑系科学専攻 創発システム論講座 有田・鈴木研究室）/ 道具の会の紹介と協力要請（自立のための道具の会）/ 美術部 部展（名古屋大学美術部）/ P. step（桜梅桃季）/ フォーミュラカーがやってくる！！（名古屋大学フォーミュラチームFEM）/ 星空プラネット（名古屋大学天体研究会）/ ホロコースト～何が起こったのか！？（スタンドファーム）/ 漫画展示会（名古屋大学漫画研究会）/ みんなの文化（第三文明研究会）/ 名大祭写真展（名古屋大学写真部）[その他] セル画 展示会・体験会（A. M. I）/ 第四十七回名大祭茶会（名古屋大学茶道部（松尾流））/ 名古屋大学文芸サークル・サークル誌販売会（名古屋大学文芸サークル）/ フェアトレード販売（名古屋大学生協ユニセフ班）/ 名大祭演武会（名古屋大学合気道部）/ 名大祭茶会（名古屋大学裏千家茶道部）

（『第51回名大祭パンフレット』より作成）

◆名大祭の理念

名大祭は、本部実行委員会や一・二年生実行委員会が中心となって企画立案・実施される点で、学生の学生による学生のための名大祭、といえるでしょう。また同時に、名大祭に足を運ぶ人々の多くは、名古屋大学の構成員ではない市民であり、名大祭は市民のものであるともいえます。

しかし、具体的な内容を見れば、五〇年の間に名大祭が大きく変容したことは明らかです。二〇〇二年に開催された第四三回名大祭のパンフレットで、本部実行委員会委員長は次のように述べています。

過去四二回の歴史の中で名大祭は様々な変遷を辿りました。当初は、名大祭における活動が名古屋大学における学術活動の発展や社会の発展に寄与するものとされてきましたが、現在はそのような理念が消失し多少なりともイベント化してしまった感が否めません。

ここでは、名大祭が長い歴史の中で当初の理念を失ってしまったことが指摘されています。では、名大祭の当初の理念とは、どのようなものであったのでしょうか。次章からは、いわば名大祭の原風景を確認しながら、その変遷の様子をみていきたいと思います。